

令和4年2月6日(日)

令和3年度 古津八幡山弥生の丘展示館 企画展3 関連講演会

新津丘陵の縄文遺跡

～縄文土器の形と文様の変化～

新潟市文化財センター
田中 耕作

考古学をやさしくしよう

佐原 眞 昭和7(1932)年～平成14(2002)年
(奈良国立文化財研究所・国立歴史民俗博物館)

- ・考古学をやさしくしよう ・考古学を楽しくしよう
- ・学問の成果をいかにやさしく一般市民に還元するか
(学術用語・略語・記号 ⇒ 研究の場で)

- ・日常用語におきかえる
- ・聞いて分かる用語を使う
- ・解説を加える
- ・ただし、学術用語を完全に排除した説明や解説は不可能

今回の展示……学術用語の言い換え、日常語。対象は中学生以上
展示解説パンフレット……一般の方と専門の双方に配慮。ただ字が小さい
本日の講演……深く知りたい一般の方、若手の研究者向け

難解な考古学の専門用語

- **遺跡**……集落・生産（窯・製鉄）・埋葬・祭祀・洞窟・
(性格) 低湿地・水中・都市・軍事
- **遺構**……**竪穴住居**・掘立柱建物・炉・**土坑**（貯蔵・墓・
掘る・盛る 落とし穴）・埋設土器・貝塚・古墳・堀・溝・
環状列石・盛土遺構・環濠・土塁・井戸・窯
- **遺物**……道具と、人骨・食糧残さ（骨・貝・種実）
材質⇒ 土器・石器・骨角器・木器・金属器
用途⇒ 鉢・甕・鍋・注口土器・斧・弓・石鏃・
石錐・釣針・土偶・装身具・銭・丸木舟
- 学術用語……**型式**・様式・類型・**編年**・**層位**・系列・遺棄

今日の話のながれ

- 1 縄文時代とは
 - ・土器は時代のモノサシ
 - ・土器型式と編年
 - ・土器の新旧と同時
- 2 新津丘陵の縄文遺跡
 - ・土器の分布圏
 - ・土器の形と部分の呼び方
- 3 縄文前期
 - ・土器づくり
- 4 縄文中期
 - ・縄文土器の文様
 - ・王冠型土器と折衷土器
 - ・深鉢の使用痕
- 5 縄文後期
 - ・土器底面の敷物圧痕
- 6 縄文晩期
 - ・深鉢の形と使い分け
 - ・土器実測図の仕組み

縄文時代とは

- ・ **土器の生成**.....約16500～15500年前
- ・ **縄文時代**.....約13000年間続く
狩猟・採集(ドングリが主食)・漁労
- ・ **時期区分**.....草創期・早期・前期・中期・後期・晩期
細分(初頭・前葉・中葉・後葉・末葉) ⇒ 言い換え
- ・ 草創期 最終氷河期、旧石器的な道具箱、遊動生活
- ・ **定住生活**.....早期になると温暖化、縄文文化の諸様相
大集落、貝塚、ドングリ貯蔵、墓域、多器種土器
弓矢や多様な石器、大型の石皿、マツリの道具

土器は時代のモノサシ

縄文土器が初めて作られたのは約15500年前(16500年説もある)
現在(西暦2020年)まで約13000年 縄文時代が84%

AMS放射性炭素年代測定法

C14が5730±40年で半減

1950年から何年前を示す yrBP

校正年代の表記 CalBP



土器型式と編年

• 土器型式

形や文様などが共通する土器のまとめ

一定の広がりと一定の時間幅（地方差・年代差）

「このような形や文様、整形方法で作らなければならない。」

という地域での約束事

• 土器編年

土器を新旧で順序よく並べたモノサシ（相対年代）

放射性炭素年代測定(C14年代)の併用 ⇒ ○○年前の土器

一緒に出た石器や住居跡の時期を知る

土器は大量に作られ、生活に密着

縄文土器の形と部分の呼び方

• 陶磁器の呼び方から

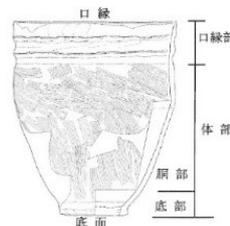
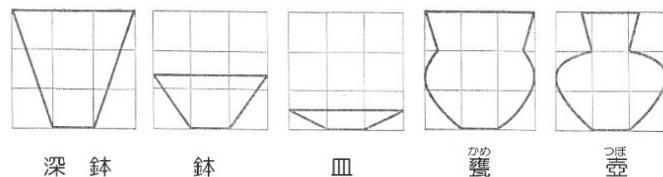
口縁部・体部(胴部)・底部

• 口縁部

直立・内傾・内湾・外傾・外反

口唇 ⇒ 口端の変容（山内1930）

• 縄文土器の基本形



大沢谷内遺跡の深鉢

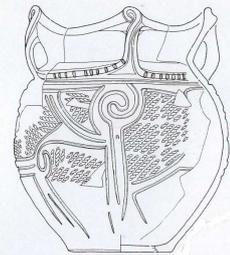
田口昭二 1983『美濃焼』
ニューサイエンス社

土器の見方

(要素に分解して比較)

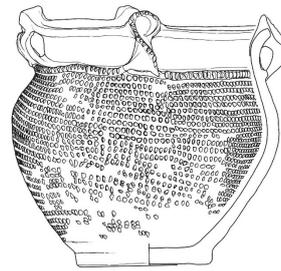
表徴:

その型式を特徴づける鍵の要素

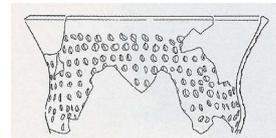


菅生田遺跡 (宮城県)

菅生田	特徴	権現山
○	頸部のくびれた形	×
○	口頸部無紋帯	×
○	頸部のキザミ隆帯	×
○	4単位の橋状把手	×
×	体部の全面刺突文	○
三十稻場式である	判断	三十稻場式とは言えない



上ノ原遺跡 (西蒲区)
三十稻場式標準



権現山遺跡 (愛知県)

土器の新旧と同時

(1) 層位学的方法

地層累重の法則・・・水平堆積は下層が古く、上層が新しい (地質学)
地層同定の法則・・・遠く離れても同じ層 (火山灰)

(2) 型式学的方法

土器の変化をつかむ

本来のものがだんだん崩れてくる。役割を失う。発展していく (?)

折衷土器・・・別々の型式の文様が、ひとつの土器に使われる。同時期

(3) 一括遺物

一括遺物：同時に埋めた(埋まった)ひとまとまりの遺物。共伴出土
共伴出土は「出土の同時」であり、「製作の同時」ではない

共存の同時性：たまたま⇒暗示⇒蓋然性⇒確実性 (佐原は5回共存で)

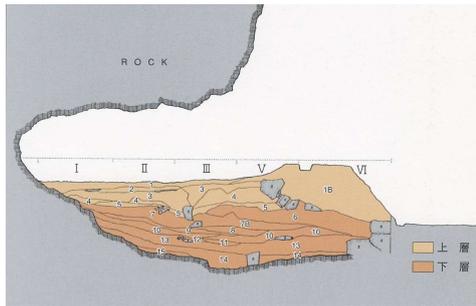
土器の出土状態 ⇒遺構内共伴と遺構の切り合い 同時か、新旧か

(1) 層位学的方法

- ・層位の基本 ⇒ 水平堆積の層は、上層が新しく、下層が古い。
- ・見えない(認識できない)土層の乱れ、ピット(小穴)

「土層は生では使わない」……混入を前提 (山内清男)

(田中耕作1992『新潟考古学談話会会報』10号)

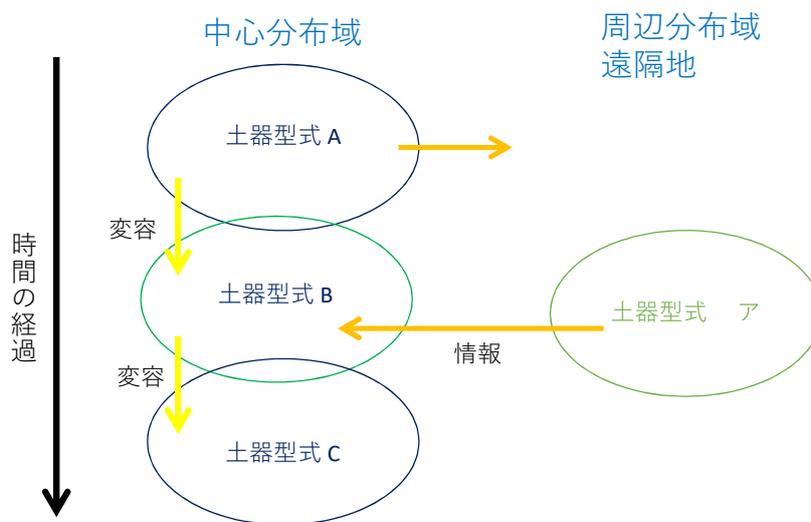


阿賀町 室谷洞窟 (小熊博史2007)

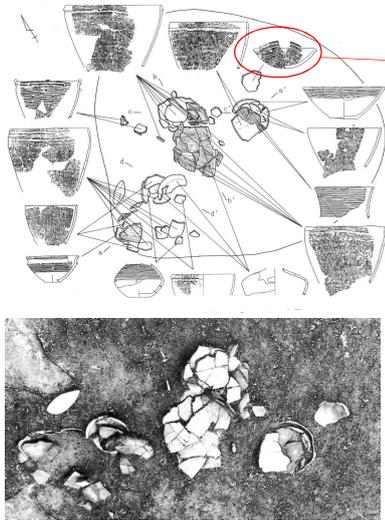


東北大学1995『中沢目貝塚Ⅱ』宮城県

(2) 土器型式 (時間と空間)



土坑の共伴出土 (古い土器も一緒に埋置)



新発田市教委1992『館の内遺跡D地点の調査』

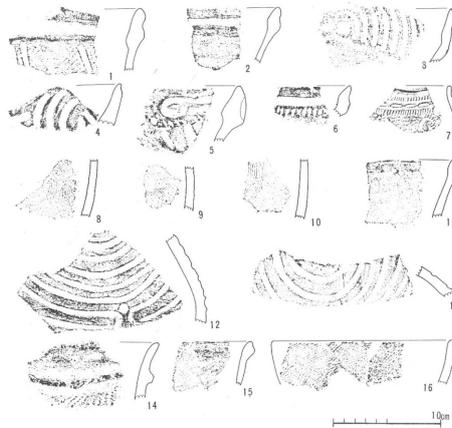
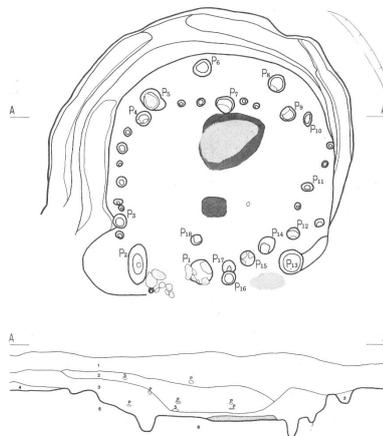
縄文晩期後半の編年

相模	浅鉢	深鉢
大須古式	1	2, 3
縄文	4, 5, 6, 7	8
代	9, 10, 11, 12	13
晩	14, 15, 16, 17	18, 19
後	20, 21, 22, 23	24, 25, 26, 27
半	28, 29, 30	31, 32

新潟県埋文調査事業団2002『川辺の縄文集落』

竪穴住居の土器破片出土

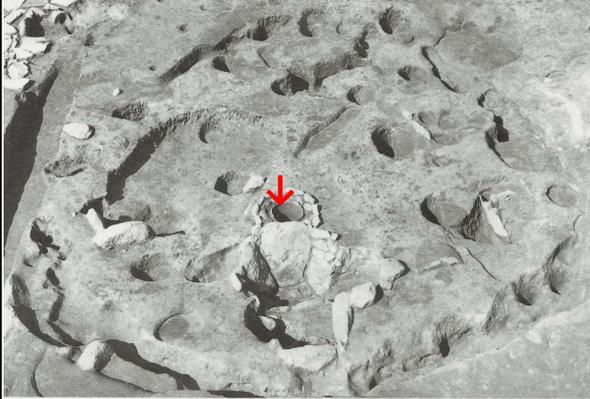
住居の窪みを埋めた土に含まれていたと解釈
⇒一括遺物ではない



平遺跡1号住居 (後期初め頃)

新津市教委1983

住居の炉の共伴出土例（入れ子の土器）



縄文中期終わり頃の竪穴住居（西方前遺跡）
 炉の埋設土器が入れ子（上下を切断した土器）
 ⇒ 住居が使われていた時期を示す
 （福島県三春町教委1992『西方前遺跡Ⅲ』）

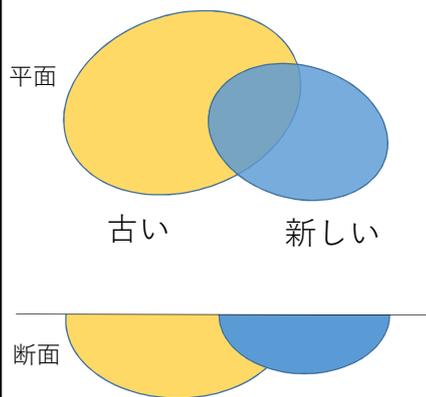


東南北部の土器
 大木10式（新段階）



関東の土器
 加曾利E 4式

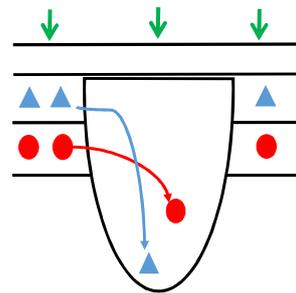
遺構の新旧関係



遺構の切り合い

後から掘った穴が、埋まっていた
 古い穴を壊している

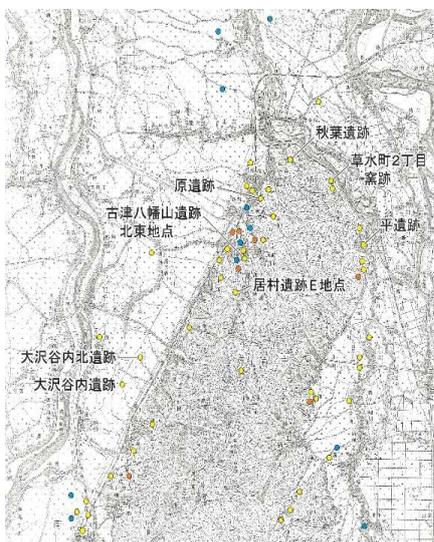
土層の逆転



- ・埋置・埋納（目的・意識）
- ・廃棄・土に混在（偶然・無意識）
- ・置き忘れ・災害（遺棄）

新津丘陵の縄文遺跡

- ・ 新津丘陵の北部
標高95～110mの里山
- ・ 東に阿賀野川 西に信濃川
- ・ 丘陵上の遺跡 (標高15～22m)
丘陵先端の平坦地
平地との高低差10～15m
縄文前～晩期
- ・ 平地の遺跡
縄文晩期 (大沢谷内遺跡)



地形図は、大日本帝国陸地測量部 昭和9年(1934)刊行

あきは

秋葉遺跡 (縄文時代 中期初め～後期初め頃)

- ・ 丘陵先端の平坦面～緩い斜面
- ・ 標高 20～22m
- ・ 平地との比高差 15m
- ・ 調査：1998 (平成10)年から13次
- ・ 住宅建築・駐車場造成など小規模
- ・ 竪穴住居・石囲炉 (後期)
掘立柱建物・土坑



たいら

平遺跡 (縄文時代 中期初め頃・後期前半)

- 新津丘陵東側緩斜面
- 標高 15~21m
- 平地との比高差 10m
- 調査：1981 (昭和56)年
2020 (令和2)年
- 竪穴住居 (中期初め・後期初め頃)
石錘・土錘 (おもり) 多い



穴の中に置かれた土器

大沢谷内遺跡 (縄文時代 晩期後半)

- 新津丘陵から西へ約1 km
- 地表の標高 4m
- 調査面は地表から1m下
- 調査：2005 (平成17)年から
2016 (平成28)年 25次
- 天然アスファルトの精製
- 一時滞在のムラ (生活に必要な石器の種類や量が少ない、
粗製深鉢が大多数で他の器種少、マツリの道具なし)
- 物々交換の港? 周辺は湿地帯。現信濃川は西へ1.5km





土器の分布圏

- 中心分布域と周辺分布域（土器分布圏）
- 遠隔地（飛び火的出土）
- 交通路（交易・交換）⇒大きな河川
信濃川・阿賀野川・荒川・日本海
- 搬入土器の認識 ⇒土器の移動・情報の移入
- 地域間のつながり・交流（人・情報）
- ヒスイ・黒曜石・アスファルト・干し貝（交易品）

縄文前期の遺跡



居村E遺跡 (前期初め頃：布目式)



新発田市二太子沢A遺跡 (前期終わり頃：真脇式)



草水2丁目窯跡
(前期終わりごろ)



縄文土器の作り方

- ① 素地作り・混和材を混ぜて練る。
- ② 形作り　・粘土ヒモを積んで形を作る。内外面を整える。
- ③ 文様づけ・立体的な装飾は太い粘土ヒモ。
- ④ 仕上げ　・生乾きの時に、ツルツルの石や貝殻で磨く。
- ⑤ 焼　成　・日陰で乾かし、500～700度くらいで野焼き。



No. 245 遺跡 51号住居跡 土器作りの痕跡



No. 245 遺跡 51号住居跡の未焼成土器

<参考文献>
可児通宏2005『縄文土器
の技法』同成社

多摩NT - No.245遺跡 51号住居内の土器づくり

(東京江戸東京博物館2021『東京に生きた縄文人』)

粘土採掘坑

竈原遺跡（後期中頃と晩期中頃）

三十稲場遺跡（後期初め頃）

多摩NT - No248遺跡（中期中頃）



竈原遺跡 粘土採掘坑
(会津坂下町教委2021)



三十稲場遺跡 粘土採掘坑
(長岡市教委 2010)



No. 248 遺跡の大規模粘土採掘跡



粘土採掘跡のアップ

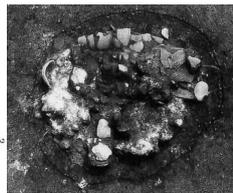
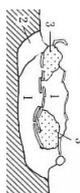
多摩NT - No248遺跡 粘土採掘坑

(東京江戸東京博物館2021『東京に生きた縄文人』)

保存状態の粘土塊

- ・ 生粘土・焼粘土
- ・ 混和材の有無
- ・ 出土位置

- ・ 陶芸の「ねかせ」はあるのか？



会津坂下町鬼渡りA遺跡
(土器内保存)

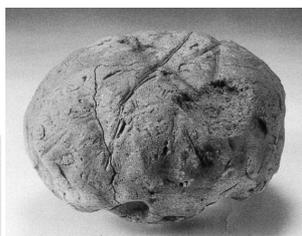


江添遺跡(生・不明)
24.2×20.2×10.7cm

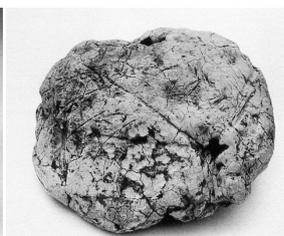
- ・ 粘土の試し焼き？
↓ (by 可見2005)



村尻遺跡 (焼・混)



村尻遺跡(焼・混) 1.61kg
14.0×13.3×9.8cm



城之腰遺跡(半生焼・無)
1.33kg 15.0×14.0×6.3cm

縄文中期の遺跡



東北系



北陸系

中期初め頃(平遺跡)



竹管文と連続爪形文

縄文土器の文様

「縄文」という名称

E.S.モース「大森貝塚の発掘調査報告書(英文)」1879年
cord mark (縄目の文様) ⇒ 白井光太郎が「縄紋」と訳す

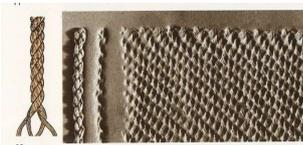
山内清男が撚紐(ヨビモ)の回転圧痕と突き止める 1931年

縄目以外の文様(貝殻 押型文 棒状工具など)



縄文 木目状撚糸文 竹管文 連続爪形文 条線文 網目状撚糸文

「縄文」 = 撚紐(ヨリヒモ)の回転文様

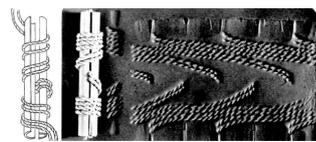


単節斜縄文 RL



結節 (結び目)の回転

<基本> 単節斜縄文
2回撚る
右撚り・左撚り
転がす→45° 傾く



木目状撚糸文



網目状撚糸文

撚糸文
(軸に撚紐を巻く)



羽状縄文



縄の側面圧痕

佐原 真1981「特論 縄文
施文法入門」『縄文土器
大成3』

王冠型土器と折衷土器

馬高式 ← 火炎土器 ← 火焰型土器
(素紋)土器 ← 王冠型土器

大木8a式を母体

キャリパー状の器形・鶏頭冠突起
横s字状文・剣先状文



火焰土器のX線CT
(新潟県立歴史博物館2004「火炎土器の研究」)

構成⇒火炎1割・大木8式ほか3割・素紋6割



王冠型類似土器
(秋葉遺跡)



大木8a式土器
(新発田市上車野E遺跡)



火焰型土器 重文
(馬高遺跡)



王冠型土器 重文
(馬高遺跡)

解説リーフレット「馬高式土器とその文化」長岡市馬高縄文館2019

縄文後期の土器

- ・ 中期終わりから後期初め ⇒ 寒冷化
食料調達・居住環境の変化



三十稲場式と網取I式の折衷
(平遺跡)



西蒲区 上ノ原遺跡
三十稲場式(古)



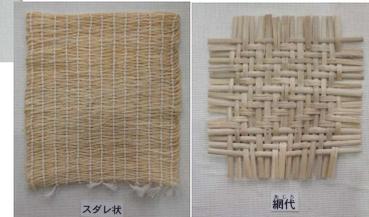
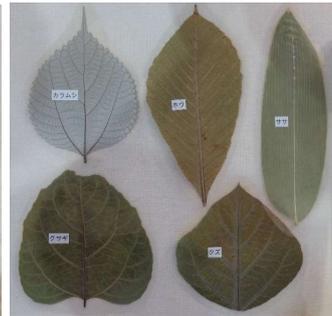
五泉市 馬下稲場遺跡
三十稲場式(新)

土器底面の敷物圧痕



後期前半の底面圧痕 (平遺跡)

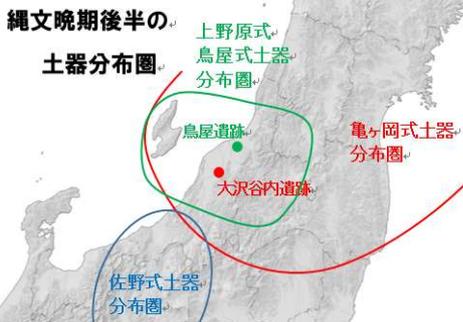
- 中期初め頃：スタレ状が多い
- 中期中頃から：木葉・ササが多い (多雪地帯)
- 中期終わり頃の阿賀北：敷物圧痕をナデ消す
- 後期から：網代が多くなる



縄文晩期の土器

土器型式の編年対比

	新潟県	東北地方	長野県
前葉		大洞B式	
		大洞BC式	佐野 I a式
中葉	朝日式	大洞C1式	佐野 I b式
	朝日式	大洞C2式(古・中)	佐野 II 式(古・中)
	上野原式	大洞C2式(新)	佐野 II 式(新)
後葉	鳥屋 1 式	大洞A 1 式(古)	女鳥羽川式
	鳥屋 2 a式	大洞A 1 式(新)	氷 1 式(古)
	鳥屋 2 b式	大洞A 2・A'式	氷 1 式(中・新)



大洞 C 2 式(浅鉢)
(大沢谷内北遺跡 左 3 点)



上野原式(浅鉢)



上野原式(広口壺)



鳥屋 2 式(鉢)
(大沢谷内遺跡)

深鉢の形と使い分け

後期中頃 ⇒ 形や作り方が大きく変わる

小さな底部・大きく開く体部・薄い壁
炎の当たる面積が増え、熱効率が上がる

精製土器と粗製土器

(後期中頃：加曾利 B 式から)

意匠文系土器と素文系土器

(後期初め：堀之内 I 式以前)

(阿部芳郎1998『駿台史学』102)

素文(ソフン) ⇒ 素紋系と使いたい

炭化物の分析 (炭素と窒素の同位体比)

(阿部芳郎ほか2021『日本考古学』53)

炭素(多),窒素(多) ⇒ 動物質
炭素(多),窒素(少) ⇒ 植物質
炭素(少),窒素(少) ⇒ 無機質

大型の粗製深鉢 ⇒ アク抜き
中型の深鉢 ⇒ 日常の煮炊き

東日本の晩期

大型の粗製深鉢が 7 ~ 8 割



平遺跡(後期初め頃)

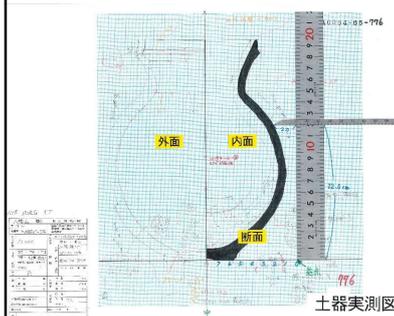


大沢谷内遺跡(晩期中頃)

土器実測図の仕組みと描き方

実測図の目的

- ・ 作った技術や使った状態などの情報を記録・保存
- ・ 実物を直接見られない人に伝えること



石川日出志2001「土器の実測
とは何か」考古学技術研究会